

15. えだまめ

・殺菌剤

| FRAC コード | 薬剤名 | 使用方法 | 使用時期 | 使用回数 | 備考 |
|-------------|----------|------|----------|------|----|
| M3 | キヒゲン | 種子粉衣 | は種前 | 1回 | |
| 1 | ベンレート水和剤 | 散布 | 収穫30日前まで | 3回以内 | |

・殺菌剤（参考農薬）

| FRAC コード | 薬剤名 | 使用方法 | 使用時期 | 使用回数 | 備考 |
|-------------|--------------|------|------|------|----|
| M3 | キヒゲンR-2フロアブル | 塗沫処理 | は種前 | 1回 | |

・殺虫剤

| IRAC コード | 薬剤名 | 使用方法 | 使用時期 | 使用回数 | 備考 |
|-------------|---------|------|----------|------|----|
| 1 | スミチオン乳剤 | 散布 | 収穫21日前まで | 4回以内 | |

・殺虫剤（参考農薬）

| IRAC コード | 薬剤名 | 使用方法 | 使用時期 | 使用回数 | 備考 |
|-------------|----------|------|----------|------|----|
| 1 | スミチオン乳剤 | 散布 | 収穫21日前まで | 4回以内 | |
| 3 | トレボン乳剤 | 散布 | 収穫14日前まで | 2回以内 | |
| | トレボン粉剤DL | 散布 | 収穫14日前まで | 2回以内 | |

注1) 使用回数はその薬剤の使用回数を記載しており、この他に薬剤に含まれる成分毎に、総使用回数が決められているので、農薬ラベル等を確認してそれを超えないように注意する。

注2) 薬剤抵抗性の出現を防ぐため、「FRACコード」や「IRACコード」を参考にしながら他系統剤とのローテーション使用を心掛ける（「薬剤抵抗性管理」参照）。

注3) 蚕毒・魚毒については、「56. 野菜類の総括注意」も参照する。

病害虫名（F：菌類病、B：細菌病、V：ウイルス病、O：その他の病原体）

| 病害虫名 | 防除時期 | 防 除 方 法 | 注 意 事 項 |
|----------------------------------|------------------|---|--|
| 紫 斑 病 (F) | は 種 前 | 1. 無病種子を用いる。 2. キヒゲン 10g を乾燥種子 1 kg に粉衣する。 [参考農薬] 1. キヒゲンR-2フロアブル原液 20ml を乾燥種子 1 kg に塗沫処理する。 | 1. 収穫後は、発病残さを取り除く。 2. 結実期に雨が多いと多発する。 3. 薬剤は葉によく付着するように散布する。 4. キヒゲン、キヒゲンR-2は水産動物に対して影響が強いので注意する（特別指導事項参照）。 5. 薬剤耐性菌出現回避のため、同一薬剤を連用しない。 |
| | 開 花 終 期 | 1. ベンレート水和剤 2,000 倍液を散布する。 | |
| 黒 とう 病 (F) | 生 育 全 期 間 | 1. 発病地では連作を避ける。 2. 常に発病株の早期発見に努め、発見次第抜き取り、焼却等適正に処分する。 | 1. 小豆、いんげんには発病しない。 |
| モザイク病 萎 縮 病 (褐 斑 病) (V) | は 種 前 生 育 初 期 | 1. 抵抗性品種を利用する。 2. 無病種子を用いる。 3. 発病株を早期に抜き取る。 4. アブラムシ類の防除を徹底する。 | |
| ダイズシスト センチュウ | は 種 前 | 1. 土壌線虫の項を参照する。 | |

| 病害虫名 | 防除時期 | 防 除 方 法 | 注 意 事 項 |
|---------------|-------------------|---|---|
| アブラムシ類 | 生育初期～ 子実肥大初期 | 1. スミチオン乳剤 1,000 倍液を 散布する。 | |
| ダイズサヤ タマバエ | 開 花 終 期 (着莢初期) | [参考農薬] 1. スミチオン乳剤、又はトレボン乳剤の 1,000 倍液を散布する。 2. トレボン粉剤DLを 10a に 4kg 散布する。 | 1. 落花して間もない若い莢に産卵する。また、被害はほ場周辺部に多い。 2. 薬剤が莢、茎に付着するように散布する。 3. トレボンは蚕毒及び魚毒に特に注意する(特別指導事項参照)。 |
| カメムシ類 | 開 花 期 ～ 幼 莢 期 | [参考農薬] 1. スミチオン乳剤 1,000 倍液を散布する。 | |

16. オクラ

・殺菌剤(参考農薬)

| FRAC コード | 薬剤名 | 使用方法 | 使用時期 | 使用回数 | 備考 |
|-------------|-----------|------|--------|------|-----|
| 3 | トリフミン水和剤 | 散布 | 収穫前日まで | 3回以内 | |
| NC | ハーモメイト水溶剤 | 散布 | 収穫前日まで | - | 野菜類 |
| M10 | モレスタン水和剤 | 散布 | 収穫前日まで | 3回以内 | |
| 2 | ロブラール水和剤 | 散布 | 収穫前日まで | 3回以内 | |

注1) 使用回数はその薬剤の使用回数を記載しており、この他に薬剤に含まれる成分毎に、総使用回数が決めているので、農薬ラベル等を確認してそれを超えないように注意する。

注2) 薬剤抵抗性の出現を防ぐため、「FRACコード」や「IRACコード」を参考にしながら他系統剤とのローテーション使用を心掛ける(「薬剤抵抗性管理」参照)。

注3) 農薬登録上の作物名が標記の作物名と異なる場合、備考欄に記載した。

注4) 蚕毒・魚毒については、「56. 野菜類の総括注意」も参照する。

病害虫名 (F:菌類病、B:細菌病、V:ウイルス病、O:その他の病原体)

| 病害虫名 | 防除時期 | 防 除 方 法 | 注 意 事 項 |
|-----------------------|---------|--|----------------------|
| 果実黒斑病 (黒斑病) (F) | 生 育 期 間 | 1. 発病葉は、できるだけ取り除く。 [参考農薬] 1. ロブラール水和剤 2,000 倍液を散布する。 | |
| うどんこ病 (F) | 生 育 期 間 | [参考農薬] 1. ハーモメイト水溶剤 800～1,000 倍液、モレスタン水和剤 3,000 倍液、トリフミン水和剤 5,000 倍液のいずれかを散布する。 | 1. 葉裏にも十分かかるように散布する。 |